



奈良町の歴史や文化を紹介する『奈良町資料館』 ～地域特有の風習を若い世代に語り継ぐ～

■奈良町に今も残る庚申信仰

昔ながらの街並みが残る奈良町エリアは、かつては東西 200m 以上、南北 400m 以上を誇る元興寺の境内であった。土一揆や度重なる火災等により寺は次第に荒廃し、中世以降は人が移り住むようになり、江戸末期には商工業の街へと変容。第二次世界大戦で空襲を免れたことから、現在も昔の名残を留めている。その奈良町の一角、元興寺の金堂跡地に、町の歴史や文化を紹介・展示する「奈良町資料館」がある。入り口の軒下に吊るされた赤いぬいぐるみは、地域に今も残る庚申信仰のお守り「身代わり申」だ。

庚申信仰は道教を由来とする民間信仰で、全国各地に様々な形で語り継がれている。十干十二支の庚申の日に、人間の中にある三尸の虫が人の悪事を天に告げに行くと言われており、申はその三尸の虫を食べることから病気平癒のお守りとされている。同館では庚申信仰の本尊である青面金剛をお祀りしており、全国からお参りに来られる方が絶えない。

館内には江戸から明治時代にかけて使われていた商店の絵看板や道具類も展示されている。何の店かすぐわかる絵看板からは、識字率が低かった当時の時代背景が窺われる。中には頓智が効いて一見しただけでは何の店かわからない看板もあるが、2代目館長の南哲朗氏のユーモア溢れる解説を聞くと、当時の商人の粋なセンスが伝わってくる。

■地域特有の風習を若い世代に語り継ぐ

昭和 60 年に同館を開館した先代館長の故・南治氏（哲朗氏の父）は、元は蚊帳職人だった。開館のきっかけは、全国を行商する中で古い街並みや文化を保存することの大切さを痛感したことから。以来、地域の信仰である庚申信仰を絶やさぬよう「庚申祭り」などの行事を行い、現在は地域の寺

や教育機関と連携して「全国庚申フォーラム」を毎年秋に開催、小・中学生を対象に「全国の庚申さん」を題材とした絵画の募集・展示も行っている。

また中学生の職場体験や大学生のフィールドワーク、世界遺産学習も受け入れており、学ぶことの楽しさや気づきが得られる機会を提供している。館長は「町の歴史や文化を、クイズを交えて楽しく解説すると子ども達の反応も活き活きしてきます」と語る一方、「僕の方が子ども達から教えてもらうことも多いです」と笑みを浮かべる。

こうした地域の世界遺産学習・多世代交流を通じて、奈良町特有の風習や情緒、賑わいがこれからも保たれていくことを願ってやまない。

（前田 徹）



（左上から時計回りに）資料館の正面入り口に連なる「身代わり申」/江戸末期以降使用されていた絵看板の数々/庚申信仰の本尊「青面金剛」/「身代わり申」

【所在地】奈良市西新屋町 14

【アクセス】近鉄奈良駅から徒歩 15 分

JR 奈良駅から徒歩 20 分

【開館時間】10:00～17:00

【休館日】年中無休

【入館】無料

・TEL：0742-22-5509 ・FAX：0742-27-5166